



リンゴ畑はよく実りました。なかでも、とりわけ畑の真中の丘に立っている大きな木は99の真赤な実をつけました。リンゴの木、実はなっても、なっても、もぎとられてしまいます。だから、この木はくらなくても、くられてもなくならないだけの実をつけようこそ一所懸命努力

のを恥づかしがりもしました。リンゴの木のように努力しないていました。むしろ、あのリンゴの木たちは、相に実をつけて満足しました。ほかのリンゴの木たちは、相

ある日、博士がやってき
ました。弟子が何十人も、
そろそろついてきました。
博士はあのリンゴの木を見
て言いました。
「おお、なんとすばらしい
リンゴの木だ。これこそ
最優良品種だ。」
その日、あのリンゴ
の木は、オチャード・
スロープと名づけられ
ました。そして、食べ
物豊富な博士の実験農
場に移し変えられたの
です。ミセス・O・ス
ロープはますますリッ
パなリンゴの木になり
ました。



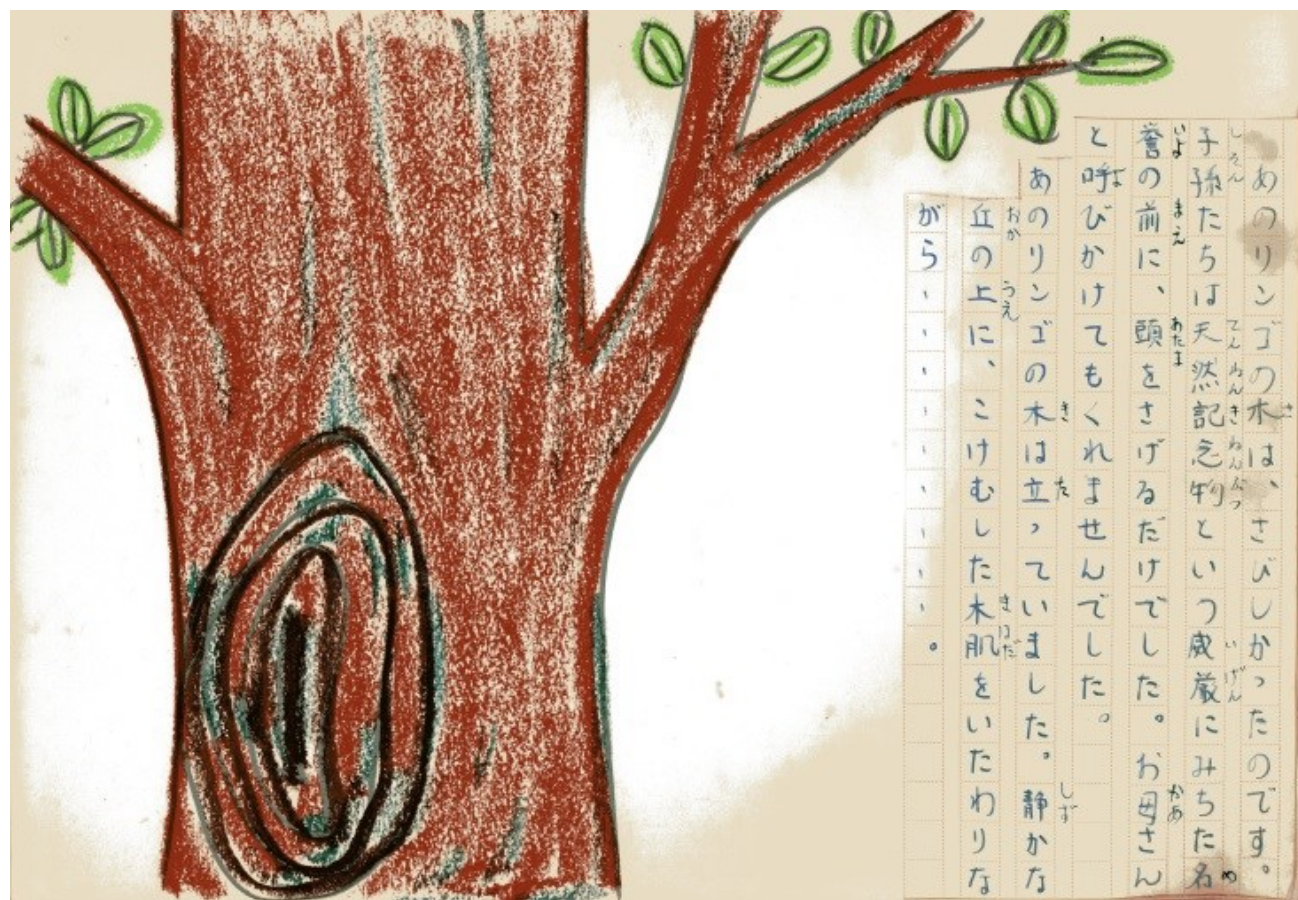
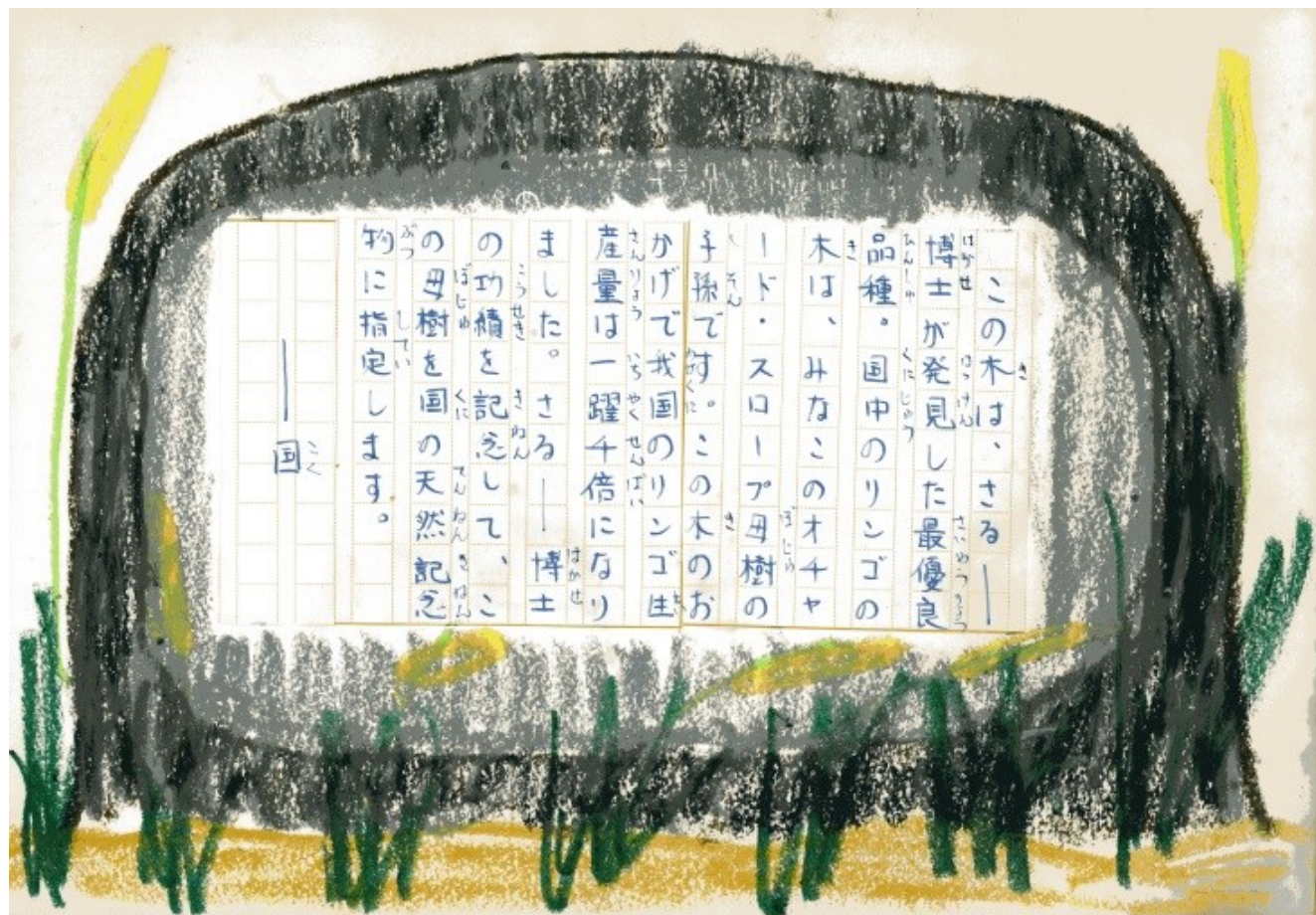
いつか、雨の季節がめぐってきました。大
雨が始めて降りました。その翌日、あのリン
ゴの木は小枝を全部切られてしまいました。
さし木をするためだったのです。土にさされ
た小枝は雨の恵みで根をはりました。あの小
枝をなくしたリンゴの木は何十本、何百本と
いうリンゴの木の母親になったのです。

このころ男の子は、すでに
 にり、ばな若者でした。成
 人式はきようだったのです。
 式をすませると、彼は入隊し
 ました。兵卒になったのです。
 りしも、隣りの国とは戦い
 のさ中であつたのでした。
 あの兵卒は突撃に参加しま
 した。弾丸の中を、くずれ
 落ちる城壁の中をくぐって、
 城の頂に勝利の旗をかかげたのです。
 は將軍から勲章を手えられ、士官に昇格
 しました。そして、またたくま
 に彼はとりでの司令官にさえな
 りました。



あれから、幾年かた
 ちました。あのリンゴ
 の木は、国中のリング
 畑をみおろす高い丘の
 上に植えられていまし
 た。り、ばな桐で囲わ
 れた、小さな、しかし
 食べ物豊富な土地に立
 っていました。見渡す
 かぎりの白い花々は彼
 女の子、孫、ひ孫、
 桐の横に碑
 が立っていました。



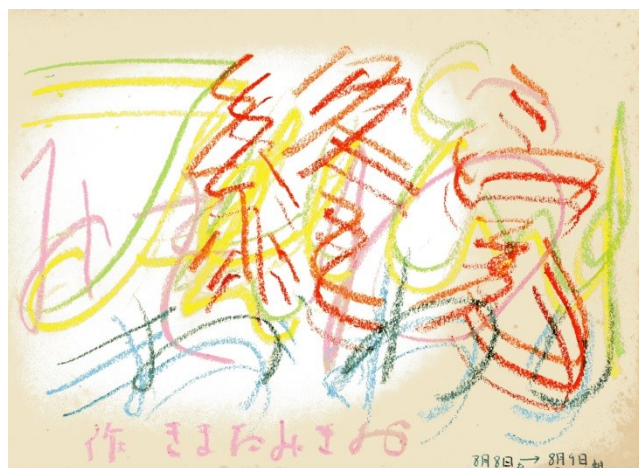


いつかの司令官はリンゴ畑の中
 の赤いリンゴの家にいました。年
 老いた専と四人の子供と幸せそう
 にくらっていました。彼は、とき
 とき、ふと思ひ出しては足をさす
 りました。



我国最大の英雄——将軍の像。

降りの国との戦いが再びおこったとき、彼
 はまた最前線で勇敢に戦いました。そして、
 戦いは彼の足をすくったのでした。将軍、
 い、い。負傷さえした方が、将軍と、
 まごころけよばれていたはずでした。国の中央
 広場の真中に、彼の銅像が立っているはずで
 した。



小説は高校生の時に読み飽きていたので、大学生になって、児童文学研究会に入会した。絵本研究班やアンデルセン研究班に入れてもらい、習作を試してみた。まったく拙いものであるが、1968年8月、大学1年生の夏休みに書いた。部室にこもって、たくさん童話を読んだ。

再録：2015年7月16日